第１回　加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会　会議録

日　時　令和４年８月 17 日（水）10 時 00 分～12 時 15 分

場　所　市役所５階大会議室

委　員	委 員 長	松岡　広路
	副委員長	谷勝　公代
	委　　員	藤本　文俊
	委　　員	櫻井　臣義
	委　　員	岩佐　文雄
	委　　員	国田　徹也
	委　　員	植田　美紀子
	委　　員	菅野　将志
	委　　員	達可　有呉
	委　　員	泉　育代
	委　　員	藤田　亮
	委　　員	大藤　由美
	委　　員	前田　恵美
	１名欠席	
職　員	教育長	民輪　恵
	教育部長	千石　剛
	生涯学習課長	北島　悦乃
	生涯学習課課長補佐	高見　和哉
	生涯学習課	近藤　優佳

１.開会

２.教育長あいさつ

皆さんお忙しい中、また雨の中お集まりいただきまして、本当ありがとうございます。

なぜ今こういう会をもつのかと思っている方もいらっしゃると思います。私がこの「加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」を２年がかりで立ち上げたいと思ってきたその理由と、目指したい方向性を話させていただきたいと思います。

まず、教育委員会の事務局というのは、学校教育課とこども未来課、それと生涯学習課と図書館が大きな柱になっております。教育センターもありますが、教育センターはどちらかというと学校教育課と連携しております。そして教育総務課が事務局すべてをマネージングしているという構成になっています。

私、ここに来ました時に、それがすごく縦割りになっていると思いました。隣でやっていることも知らないというような状況がすごくありまして、何とか横で繋がっていくようにしないとと思って、私なりにかなり努力をして、そのような方向に持ってきたつもりです。

その一つが、今年首長部局から教育部長になってくれたこちらの部長です。教育委員会というのは、今申し上げた課が全部ありますので、社会教育や生涯教育を含めて教育全体のマネージメントをする人が必要です。私が２年目に入りまして、広い視野で教育委員会を見ていかないといけないと思い、その一つが、教育部長の任命に表れていると思います。

私が教育長になりまして、最初に至急検討しなければと思ったのが学校教育の現場でした。それで、未来の学校構想検討委員会をようやく立ち上げまして、９月には答申を市長へ提出します。

その前提として、加西市の教育の中身は、STEAM 教育（Science：科学、Technology：技術、Engineering：工学・ものづくり、Art：芸術・リベラルアーツ、Mathematics：数学の 5 つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念。また、これら 5 つの分野の学習を通して、子どもを今後の IT 社会に対して、自らの頭で考え、問題を解決しようとする人材を育てていくための教育手法。）を義務教育から行っております。全国でも義務教育から行っているところはほとんどないです。私は、そういうことをやりながら学校の規模をどうしていくか、それを決めないといけないと思っております。

私の考えとしては、小学校というのは地域の文化の核です。それを安易に数だけで統廃合していいものかということを自分の強い疑問としてもっております。今、大型の統合された小中学校は、世界的な趨勢からいって遅れていると思っています。むしろ、小規模でそれぞれの子どもたちに目の行き届く教育をしていくことが今、世界的な潮流だと思っています。小学校では、競争心を育むよりも基本的な人間力を高めるために、配慮の行き届いた教育をするべきである、ふるさと意識もそこで芽生えてくる、という主張を抱きながら未来の学校構想検討委員会で議論して参りました。

また、義務教育から STEAM 教育を推進することを標榜いたしまして、市長がそのことに対して大変前向きに反応をしてくださいました。私が STEAM の考え方を市長に言い続けた結果、「STEAM 教育というのは、21 世紀の新しいヒューマニズムだ。だから、僕は一緒になってやります。」ということを年初に標榜してくださったのですね。そこからより現実的に進むようになってきました。その前から教育総務課も学校教育課も、一生懸命に学校にその基盤を作っておりましたので、これは随分と進んだと思っております。

内閣府のデジタル田園都市国家構想というものがありまして、これは地方都市にデジタルの機能をきちっと据えることによって、地方が文化的な力をより発揮できるように整備していくという発想でやっているものです。そこへ加西市教育委員会が STEAM 教育を中心に据えて応募をいたしまして、全体のスケールとしては約２億 7000 万円が認められました。

そのことで、図書館はスマート図書館という形で今まで出来なかったことが整備され、学校は STEAM ラボという STEAM を研究する教室が各校に新たに作られます。

実はそのネットワークの中にそれぞれの公民館も入っておりまして、公民館にも STEAM ラボを作り、そこに最新の機器が入ることになります。これによって、それぞれの公民館が

デジタルを活用して、今まで出来なかったことが出来るようになります。
　ただ、デジタルだけを整えても、そこに人がいなければ全く動かない、それは学校も公民館も全く同じでございます。
　同時に、STEAM 教育を中心に据えたことも一助となって、加西市は SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）未来都市に指定を受けました。そういう観点からも、私は公民館を地域の文化的なコアにしていきたいという強い思いを持っております。
　人生 100 年時代を生きていくために課題は多々ございます。SDGs、デジタル田園都市国家構想を進めていくにも、それぞれの公民館において、そういうことが具体的に進んでいかないと何の意味もないと思っています。やっぱり人間が中心でございます。そういうことを含めて、今日から話し合っていただければ嬉しいなと思っています。
　私には、どうも 4 館の公民館とオークタウンがバラバラに講座をやっていると見えてしまうところがありまして、もっと個性的に、同時に総合的に地域の力を結集し、活きた場にしていかないといけないと思っているのですが、私ひとりではとても何もできない。それを皆さんに検討していただいて、ご一緒に助けていただければ大変ありがたいなと思っております。
　Society5.0 と今言われているのですが、それに対応すべく、新しい発想、新しいシステムで公民館を蘇生させたい。そして、公民館を核にするにはどうすべきか、前向きに議論をしていただき、新しい公民館の未来像というものをまとめ上げていただければ大変ありがたいと思っております。

３. 委員紹介
～事務局より委員紹介～

４. 委員長・副委員長の互選
　委員長あいさつ
　教育長からこの検討会のねらいのお話があって、身の締まる思いです。加西市は最先端の社会教育の仕組みを作ろうとしていることを感じ取っていて、これは面白い会になりそうだと思っています。ぜひ皆さんの意見をいただきながら、世界に発信できる加西の社会教育、公民館を作り上げることができたらいいなという夢を感じてワクワクしています。皆さんもそうでしょうか。
　そう申しますのも、僕はもう十数年来、日本の公民館ほど SDGs あるいは ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）を進めていくのに適した施設はないと言い続けているのです。今は学校でも SDGs を一生懸命やろうとしていますが、一言で言うと、学校だとうまくいかないです。なぜうまくいかないかというと、17 個のゴールをうまく繋いで初めて理想の社会ができるとすれば、繋いでいくときの本質は我々の生活だからです。これを一番わかっているのは大人です。地域の中で具体的な家族の問題や仕事の問題、あるいは自分が幸せに生きるときの環境づくりや友達づくり、こういった生の生活感覚を持っている人たちがようやくこの 17 個のゴールをつなげることができるのですね。

ところが、生活をしていて職場と家の往復だったり、特に今はコロナウイルスがありますので、横の繋がりが上手く作れなかったり、知らない人と出会って気さくにお話することが難しかったりします。この地域の中で、我々がこの世界的に言われている課題と自分の生活を見直すことを繋ぐことができる場は、公民館が本来最適なのですよ。

ですが、公民館も人が少なくなってきたとか、いろいろな関連の施設ができて一体何をするところかよくわからない部分も生まれてきています。そこでもう一回、加西市で社会教育、特に公民館・オークタウン加西の役割をきっちりと明確に見せることによって、次の一歩何をするのかということを皆さんと協議できたらいいなと思っています。

ご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。

副委員長あいさつ

今、本当に力強いお話をお伺いして、この１年で自分がどれだけ成長できるのか自分なりに楽しみです。また、皆さん方も一緒にいろいろなご意見をいただけたらと思います。

この年齢になりましたら、悔いのないと言ったらおかしいですけど、今の時を十分に生きていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

５.協議事項

（１）本委員会の趣旨について

(生涯学習課長)

まず、公民館というところについてお話をさせていただきたいと思います。公民館は、第二次大戦敗戦後に新しい国づくりの拠点という位置付けで法案され、教育基本法、社会教育法によって整備されて今日に至っている施設です。多様な学習の機会や集会の場の提供、地域住民の学習したい気持ちに応える社会教育施設であります。また、地域社会の形成や地域文化の振興に貢献するなど、地域住民の皆様の日常生活に最も身近な施設としてこれまで役割を果たしてきたものと思っております。

しかし、世の中は少子高齢化、また産業や就労形態の変化による地域の担い手不足の深刻化も出てきております。その結果、地域の人間関係も変化してきているという事実がございます。その状況は加西市も例外ではありません。そのような中にあっても、やはり公民館は、市民や各種団体との繋がりをもって、地域や住民にとって最も身近な公共施設であり、コミュニティ構築の最適な場であるといえると思っております。

この委員会では、加西市の公民館の現状というものを再確認し、抱える課題をまず明確にしていきたいと思っています。その課題に対してどのような取り組みが必要なのかということを検討することで、これからの公民館の新たな姿を描き出して、住民の皆様から必要とされる拠点施設を目指していきたいと思っております。

私たちとしましては、今、各中学校区に１つずつ配置されている公民館とオークタウン加西、この施設を活性化し、存続させていきたいと思っております。

そのためには、どういった施設になっていくべきなのかをこの委員会で検討していきたいと思っております。住民の方々にとって使い勝手がいい公民館とはどういうものなのか、ま

た、そのための仕組みはどういうものが必要になるのか。また、職員はどういうふうにあるべきなのか。そういったことを全部洗い出して、取り組んでいくべきものを明確にしていきたいと考えております。

地域の人が繋がる空間であることが公民館の役割としてあると思いますので、それを運営していくためには、どういう組織であるべきなのか。地域を担っていく人材が生まれる豊かな学びの場の公民館にするには、どういう取り組みが必要なのか、どういうシステムづくりが要るのか、どういう整備が要るのかといったことを洗い出して、これから取り組んでいくべきものを短期、中長期という形で目標を設定してやっていきたいと考えております。

委員の皆様、どうぞ忌憚のないご意見とお考えをお聞かせいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）

今の生涯学習課長のお話は大事なポイントがいろいろ入っていたのですが、皆さんの頭の中に残ったキーワードはどんなものがありますか。

僕は、「繋がる空間」というキーワードは、生涯学習課長そういうことをお考えなのだなと思いました。それから、「仕組み」というキーワードですね、課題を洗い出したうえで、その課題を上手く解決していくための仕組みをどんなふうに考えたらいいのか。ここのあたりが非常にポイントになってくるのだなと思いました。

それから、僕と教育長は、新しい未来の社会に向かって公民館はどうあるべきかを大々的に掲げたいと思っていたわけですが、生涯学習課長は地域住民にとって「使い勝手の良い公民館」という非常に大切なポイントも言ってくださいました。

これらを踏まえて、新しい公民館を描きながら、互いに住民が繋がる時の仕組みを具体的に考えてもらいたいということだと僕は理解させていただきました。

他に、今の生涯学習課長の趣旨の説明踏まえて、気になったことや心に響いたことをお話いただけますか。

（委員 G）

最初に教育長がこれまで公民館がバラバラに講座をしていると言われていたのですが、それが残っているということ自体も全国では珍しいというか、貴重な存在になってきているのではないかと思います。

なので、それを残しつつ未来にどう繋げていくか、その時にどうやって人集めるか、地域の課題をどうやって公民館に持ってくるか、主体的な意識で住民の方がそこで何か考えるかというような仕組みをどうやって作るかが一番大事なのかなと思いました。

（委員長）

これまでやられてきた公民館活動の強みを残しながら、住民主体で進んでいく仕組みが大切ということですね。

（委員 D）

先ほど言われました、繋がる空間であること、それから、住民から必要とされる施設であることです。

私の印象としましては、やはり仕事を離れられた年配の方が利用されている印象が強かっ

たです。これからの加西市が作っていく公民館の未来の像としては、お年寄りだけではなく、いろいろな世代が使えて、これまで知らなかった人や繋がっていなかった人と繋がることができる機会が作れたらいいなと思います。
（委員長）
一口に住民と言ってもいろいろな住民がいるので、いろいろな世代の人たちが使える、そして使い勝手の良いものにしていくことができるかというとこですね。これもなかなか難しい課題ですね。
STEAM 教育を学校で一生懸命やると、公民館とうまくつなげることができて、そういう世代との繋がりもできるかもしれないですね。
特に、デジタル田園都市国家構想は、田園と田園の中でのデジタル、都会と田園を繋いでいくデジタル、この二つの方向のデジタルを活性化する拠点になってくださいということなのです。これなかなか面白い可能性があって、全住民の繋がりをするきっかけになるかもしれないです。もっといろいろな方法もあるかもしれません。

（２）公民館・オークタウン加西の現状と課題について
～事務局より説明～
（委員長）
それでは、ただいまのご説明に対して、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。
僕が１つ先に質問させていただきます。公民館まちづくり出前講座の活動回数の推移表で、平成 26 年の中央公民館が 43 回と突出しているのですが、これはどういう事情でしょうか。
（委員 H）
私は中央公民館に勤務していたわけではないのですが、おそらく平成 24 年に公民館まちづくり出前講座が始まって、２、３年経過したところで知名度も上がってきたのではないかと思います。
中央公民館でしたら、マジックや銭太鼓の活動を多くされていたり、特定のグループがいくつか敬老会などに行かれたりしていたのかなと思います。
（委員長）
もしこのまちづくり出前講座の具体的な内容で特徴があれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。
（委員 K）
現在、公民館の職員として勤務しておりますので答えさせていただきます。
まちづくり出前講座は、主に芸能のグループと展示のグループがあります。芸能のグループは、マジックや銭太鼓など見せるものを出演という形で町の敬老会や子どもの学童保育に行かれています。展示のグループは、書道や絵手紙などを教えるという形で地域に出られています。
（委員 G）
登録団体は高齢化が進んでいるということだったのですが、継続して講座に参加されてい

る若年層の人がどれくらいいるか、数字が分かれば教えてください。
（生涯学習課長補佐）
細かい数字はすぐにお答えできませんが、託児付きの講座も準備しておりますし、内容によっては比較的若い女性が参加されることもあります。また、夏休みや土曜日に子ども向けの講座を開催しておりますので、親子で参加されていることもあります。
（委員 G）
そうですよね。資料を見たら意外と若い方も参加されているなと思いました。
（委員長）
資料にもありますが、これからの 50 年くらい、加西市の高齢者人口は 1 万 3000 人ほどで安定すると予想されております。その一方で、若い世代がどんどん減るという人口のアンバランスはこれから先もしばらくは続くだろうと言われています。
高齢者とカテゴライズされている人の人口がある程度安定していることは、比較的いろいろなことがやり易いかもしれないですね。それとともに、違う世代が注目を浴びるので、その人たちとどう繋がるかが課題になってくる、むしろ可能性が広がっていくという考え方もあると思います。
今の事務局の状況説明に対して、皆さんがどのような課題を感じたのかご意見を賜りたいと思うのですが、いかがでしょうか。
（副委員長）
高齢者大学の卒業制度について、卒業することなく続けるのか、それともステップアップして段階をこしらえるのか、これは利用者の方にお伺いしないとわからないですが、もっと専門的に学びたいという意識を持たれている方も多いと思います。
今は高齢者といっても皆さん若いですから、それも考えていかないと。高齢者の中でも、どこへ魅力を持っていくのか、どこへ情報を得ようとなさっているのか、それはこちらとして提供していく必要があると思います。
（生涯学習課長補佐）
以前は卒業制度があったのですが、人数がなかなか集まらないということがありました。卒業してから OB として参加できる制度もありましたが、やはり参加者が少ないということで、今のような卒業制度がなく参加を続けることができるという形になっております。
先日、加古川市から加西市のこの形について視察に来られました。それが、こちらより遥かに人口が多い加古川市ですが、それでも参加者が確保できないということでした。卒業制度が良いか悪いかは別として、どこも人集めには苦労しておられるのかなと感じました。
（委員長）
実は、卒業制度を設けるというスタイルが高齢者大学の初発の制度でした。ですが、卒業というカリキュラムがあっていいのだろうかという問いもあります。
例えば、明石市ですと、公民館で行われる高齢者学級に卒業制度はありません。自ら、止めるか止めないかという選択をしてもらいます。
それぞれの公民館で学習内容に個性があれば、それぞれの公民館を渡り歩くことができるのですよね。最初の数年は陶芸のことをやって今度は俳句のことをやって。それは何々公民

館が強いようだということがわかると、そちらを渡り歩いてもらいながら自分で自分の学習プログラムを選ぶことができないかということが模索されています。

バージョンアップするときは、明石市の場合、また別立てで高齢者大学校というのをもう一つ大きく作っていて、バージョンアップしたい人はそこに参加してもらうという別の仕組みを作っているわけです。これも、比較的大きい市であれば、自分の市の中で全部の施設をデコレーションケーキみたいに積み上げていくことができるのですが、加西市の場合はどういうパターンがあり得るでしょうか。

例えば、加西市はすごく交通の便がいいところですよね。鉄道もありますし、高速もありますね。やっぱり、健康的で活動できるアクティブな高齢者が大勢いらっしゃる事もターゲットにしておかないといけないと思うのです。そういうシニアの人たちの学びの場をうまく仕組みとして配列できるかどうか。

僕が期待するのは、加西市近隣の施設を使って学習する動きが広がるネットワークづくりもあるといいなと思います。その辺の情報は、公民館や市役所に行けばいろいろ教えてくれるとか。公民館だけで同じような高齢者の学びの場があるのではなくて、公民館ごとに個性が多少あったりするというのも何か今後考えられるかもしれないですね。

（委員 H）

加西市のかしの木学園は、いなみ野学園やうれしの学園とすみ分けをしていると思います。もっと学びを重ねていきたいという方はそちらの方に行かれている。加西市は、中学校区に公民館がございますので、地元の方がいつまでも健康で学びを求める、行きやすいところを目指していると思います。

（委員長）

それは先ほど委員 G さんがご指摘された、残っていることがすごいというところに繋がりますね。よくわかります。

（委員 H）

その中でも、公民館ごとに特色をつけていくことが出来ればいいと思います。

（委員 J）

私はこの４月から着任したのですが、肌で感じている課題が、先程から出ている高齢化とコロナで引きこもりの様子があるということです。

私自身も仕事に就いているときは、公民館の存在を知りながら用事があるときしか足を運んだことがなくて、自分のエリアの公民館という意識がすごく低かったです。なので、住民の方々はわからないですが、肌で感じるところでいくと公民館という認知が住民の方にとっては薄いのかなと思っております。

（委員長）

公民館そのものが、地域の人たちにとって、自分のところの公民館という意識が低いのではないかということですね。

（委員 J）

用事がなくても自由に出入りができること、これはこちらのアピールや情報提供をもっとしていかないといけない課題でもあるのかなと思いますが。

また、公民館の講座は、いろいろ学びを身につけることには使われていますが、自分磨きに終わってしまって積極性が少し低いかなと思います。その辺りをどういうふうに火をつけていったらいいのかなと悩むところです。

あと、高齢者の方が多いことに加えて、女性の参加は多いですが男性の講座の参加がすごく少ないというのも課題のうちかなと思っています。

（委員長）

自分の持っている知識や技術、学んできたものを外の人たちに伝えることにあまり積極的でない部分があるので、住民の人が積極的に自分の学びを地域に還元する仕組みが必要ということが一つですね。

それから、高齢者の人たちがいろいろな形でこの社会教育施設を使っているけれど、公民館の場合は、男性の利用者が少ない傾向があるので、もう少しバランスがとれたらいいのではないかというお話ですね。

（委員 J）

アピールが足りないところで、今はホームページなど紙面以外にもいろいろとしているのですが、それではなく心で伝えていかないと。みんな最初の一歩が出ないので、もちろん紙面や電子でアピールを出しながら、それで届かない方には、来られている方がお友達を誘いかけるようなことがあれば増えていく可能性はあるのかなと思います。

（委員長）

今の委員 J のお話だと、ホームページや紙面をうまく素材にしながら、結局は人と人が誘い合って来てもらう、1 人ではなかなか積極性が湧いてこないところがあるかもしれないということですね。

誘い合いのコミュニティづくりですね。誘い合う人間関係があればいいけれど、誘い合う人間関係に切れている人達には全く情報が届かないですから、繋がりづくりが結局誘いを生みますよね。では、どうやって繋がりをつくっていくか、どう繋がりのきっかけを公民館や施設で提供できるのかもポイントなのでしょうね。

皆さん、公民館は出会いの場になっていますか。新しい人と出会った場が公民館であるという経験はありますかね。

（委員 E）

ありますよ。グループの人たちは、同じ趣味、同じ気持ちを持って集まっておられるので、それまで全然お付き合いがなかった人たちですが、すごく親しくなりました。

会話も当然スムーズにいきますし、教室だけではなくて都合が許せば食事に行くこともあります。また、年に 1 回は教室を出て外で活動をするなど活動の場が広がって、本当に良いグループ活動ができているなと感じています。

（委員長）

いわゆる登録グループやサークル活動は、新しい人との出会いや活動の場を広げていくきっかけになっていて、これはそれなりの効果がありますよという話ですね。

そうすると、この登録グループやサークルの紹介がオープンかどうかですね。ややもすると、閉鎖的という噂も聞きますが。

（委員 E）
全然閉鎖的ではないですけれど、確かに PR は下手かもしれません。最近、公民館への誘いを見て市外の方が入って来られました。なかなか近くの住民の方にお誘いをかけても、うまく入っていただけないのに、市外の方も来られたということはすごく嬉しかったです。今はお出迎えをして本当に仲良く活動させていただいています。
（委員長）
今までのことを割と肯定的に考えていらっしゃる委員 E から見て、加西市の公民館の課題はどういうものが思い浮かびますか。
（委員 E）
高齢化ですね。今の 70 代 80 代は元気ですけれど、昨今、運転免許証が返納されていますよね。加西市は車がなければ移動できません。自分で車を運転していかないと、どこにも行けない地域なのです。だから、免許を返納した方が、行きたいけれど車がなく行けないので、やむなく辞められたという方がここ最近増えてきています。それはとても残念なことです。
（委員長）
なるほど。それは重要な課題ですね。
（委員 A）
私が言いたかったのもそこですね。一番大事な地域の公共交通について、地域の交通バスを公民館に止める方向でしてほしいということを随分前から言っていますが、それがなかなか通らない。やっぱり需要と供給で特に足がない人が使うのであれば、こういう公共交通を公民館の前に止めるような機会をまず作ってもらうのが大事かなと思います。
それを今は、バスだけではなくて乗用車でもやろうとしているのです。それと一緒に、小学生が公民館を普段の授業で使うようなことも一つの案として出てくるのではないかと。
やっぱり一番根っこになるのは、公民館のうえにある行事やイベントだけではなくて、行くもので、今一番欠けているのはそこではないかと思います。それをまず使えるようにして、できるだけ普段の利用者を増やすことも大事だと思います。
もう一つ言えば、1 週間に 1 回でもいいから、例えば公民館活動の中の人によって喫茶みたいな場所をするのも一つの楽しみじゃないかなと思います。
それと、先ほど委員 J が言われた中で私が一番気になったのは、文字で伝わらないということです。公のところでは当たり前の文書しか出てこないけれど、伝える言葉という文字は必ずあるのですよ。それを使うか使わないだけだと思います。だから、やっぱり伝える言葉という文字を探して書くことによって伝わるということは、どこの場所でも大事ではないかなと思います。
（委員長）
高齢化していく中で、あらゆる人たちに利用してもらおうと思ったときに、まず足をどうするのかというところも、実は公民館活動の重要な課題になっているのではないかということですね。
具体的なご意見等もいただきました。コミュニティバスや、ローカル交通をどういうふう

にアクセスしていけばいいのかという提案が、一つの公民館の課題になっていくこともあり得るなと思いました。
（教育長）
　地域の代表は、現実的に地域で公民館が必要だと思っていらっしゃるのかお聞きしたいです。
（委員 B）
　最初に教育長が言われたように、公民館は地域の核にならないといけないということです。私は今、地域づくり協議会の副会長をやっています。これは、下里のはつらつ委員とふるさと創造会議が２年間かかって統合されて出来ました。
　ところが、活動拠点がないのです。役員の相談事は会長の家で、部会は教育部長の家で行っています。総会などであれば、公民館の会議室を借りて行っていました。そこで、公民館のフロアの片隅に机１個、プリンター１個を置いて活動させてくれないかとお願いしました。ところが、返事は貸すことが出来ないと。
　地域づくり協議会の活動資金は、全て市と社会福祉協議会からの補助金で賄っています。それで、すべての区長が役員なり会員になっています。老人会とかも全部しています。本当に地域の核なのですよね。もし片隅にでも活動拠点を置かせていただいたら、みんなそこへ寄ってくるのです。自ずと利用者数も増えますよね。その部会の一つに、はつらつ部会というのがありまして、買い物の送り迎えも全部ボランティアで行っています。そういう団体に貸すことが出来ないのは、どうしてなのかなと思いますね。
（委員長）
　地域の地縁的な繋がりを持っている組織が公民館を事務局にしていくことは、昔も今も割と当たり前にやられているところがあるのですよ。
（教育部長）
　ふるさと創造会議の事務局機能として善防公民館を貸してほしいというお話は承ってはおります。ただ、現在、我々がその館を運営している規定の枠内でいけば、お貸しすることができない。貸館として使ってもらうことは何ら構わないという立ち位置でご説明したものです。
　ただ、地域の活動拠点が善防公民館とリンクするということは全く否定するつもりはございませんので、そこは今後の話だと思っています。また、そこのふるさと創造会議の活動拠点という議論は別途させていただきます。
（委員長）
　固有名詞的な考え方についてはまた別途ケースで考えていただければいいです。
　ただ、公民館を自分たちで管理しているという意識を住民に持ってもらうためには、地域の様々な組織の人たちが自分たちの舘だという拠点意識をしっかり持ってもらうことも大切かなと思います。その具体的な方法をしっかり見るということもぜひ検討したいですね。大事なポイントだと思います。
　今の委員 B さんの話は、三、四十年前の公民館だったら当たり前だった。それがだんだんそうではなくなってきているという文脈があるのかもしれないので、また確認してみたいな

と思いますね。
（委員 C）
私は南部公民館のエリアですが、活動の状況を見て、積極的に活動されているなと思っております。
ただ、エリアが富合小学校から九会小学校で結構広いものですから、それこそ公共の交通が走っておりません。それだけ活動をしようとすると、おそらくマイカーで集まられているのではないかなと思っています。
公民館活動とは別に、いきいき委員会やはつらつ委員会を作ったのですが、そこでも個別に子育て教室や各町で独自に活動しています。だから、住民の方の様々な教育活動、地域活動の役割のすみ分けを考えて、上手く住民の方々が充実した社会教育活動をやっていただければいいであろうというふうに理想は考えております。
急に、何が課題かというと思い浮かばないのですが、その地域の住民の方々が必要となる活動ということと、今はこういうことをやっていただいた方がいいのではないかということを上手くミックスしながらやる必要があるかなと思っています。
（委員長）
なるほど。比較的うまくいっているような印象があるということですね。
（委員 C）
少し楽観的かもしれないですけど。
（委員長）
住民の方が主体であるということが公民館には大事で、住民がいろいろな層でやや主体的になる仕組みとしては、まあまあうまくいっている部分があるだろうということですね。
僕は、そこでさらに何に向かって主体的であるかを聞きたいです。かつて、公民館が作られた時にねらいとされたのは、話し合いをする習慣、話し合いをする場を作るということでした。
その時に何を話題にして話をするかと言ったら、それぞれ自分の地域にある課題だったのです。それとともに、現代的に言われているテーマが SDGs なのですね。加西の暮らしぶりの中に地球での新しい社会の暮らしぶりが見えませんかということを提案するようなものになってくれることに対して、住民がどう判断するかですね。
そのあたり、どういう方向に変化して欲しいと地域は思っているのか。これに公民館が繋がるといいなと僕は思うのですけどね。
（委員 C）
公民館を中心に集まるという習慣づけができれば、活動したタイミングで SDGs に繋がるようなテーマも兼ね合わせた催しをするとかできるけれど、まず集まるという習慣がないと。
（委員長）
公民館に集まる習慣があまりできてないということですか。
（委員 C）
いや、集まる習慣は、かしの木学園などの活動状況見るとあるとは思うのですけど、そう

いうのをうまく活用して伝えながら、新しいテーマなりを提供していくという手もあるかなというふうに思います。
（教育長）
公民館は公民館でセミナーとかいろいろなことやっています、住民は住民でいろいろなことやっていますと。これが重なり合ってないように私はすごく感じました。
（委員 C）
出前講座は、実際、年に何回か私が住んでいる豊倉町にそういう活動されている人を呼んでやってもらうような繋がりはあります。
だから、そのはっきりとすみ分けをして、これはこうじゃないかという考え方じゃなくて、それぞれポジションやその場所自体をうまく有機的につないでいくということが大事であると思っています。
（委員 F）
先程の質問の必要性みたいなところをちょっと考えていたのですが、30 代 40 代で子育をしていて、公民館が必要かと言われると多分皆さんそうじゃないのかなと思います。もし、そこで行政サービスが受けられるとか、図書館が併設されているとか、もっと僕らも利用しやすい部分があったら行くのかなと思うのですけど、集まって考えて課題解決してという余裕がない世代なのかなと思っています。
だからといって、僕はそれが必要ないとは思わない人間で、今まで社会教育や生涯学習の現場で働いてきましたし、今もずっと活動している中で、そういう場が絶対必要だと思っています。例えば公民館なくすという議論はありえないなと思っていて、必要性はすごくあると思っています。
今、議論されている高齢化について、社会の中の高齢化の話は僕も課題かなとは思うのですけど、公民館の中での高齢化の話はそんなに課題ではないと思います。
学びたい人は学ぶ、そこに学んで欲しい人に学びに来てもらう仕掛けが要るのかなと思います。それは、僕らの世代やもっと小さい子どもたちの世代なのかなと思います。子どもに対して、学校や家庭でできないことを社会で後押しする部分がいるのかなと思うのですが、小学生にはそれができているけど、中学生や高校生に対しては、公民館ではまだまだできてないところかなと思っています。
多分、高齢化で悩むのではなくて、新しい世代に対して提供していく。そこが興味を持って参加したいなと思ってもらえるような仕掛けが今から必要なのかなと思います。
（委員長）
まだこれから先続く委員会の中でも、皆さんに課題を丁寧に言っていただこうと思っているのですが、今の委員 F の観点の違い、公民館はシニアの人たちに向けての対応はもう経験も歴史も十分にあるのではないかと。むしろ、公民館を利用できていない、ターゲットから外れている人達をもっと丁寧に見て、その中で学習活動ができるようなまなざしが必要なのではないかというご意見だったと思います。
非常に大切なポイントですよね。そのためには公民館を運営する、企画を作る人がそういう世代の気持ちを理解しておかなければいけないですね。

（委員 F）
　その人たちがそこで学んだことをアウトプットする方法も必要だと思います。高齢の方が受けられている講座やサークル活動も吸収ばかりで、学びを何かに変えるっていうところが要るのかなと思います。
　僕はボランティア活動の中で、子どもと関わることが多く、遊びをその子の経験や体験を通して学びに変えてあげようと思って活動しています。今度はその学びを何かに変えてあげないといけないのかなというのと、そこは公民館・オークタウンの役割でもあるのかなと思っています。
（委員長）
　個人が何かを身につけることと、今度はそれを外に発信していったり、他の人に伝えていったり、あるいは、それが何か具体的に役に立つ活動みたいなものに橋渡しをするような場面が公民館の活動の中にあれば、いろいろな経験を踏まえて知識があるって人たちも公民館に行きたくなりますね。
　ボランティアセンターとはまた全然違う意味で、あるいはシルバー人材センターとも違う意味で、公民館ならではの社会活動に貢献できるプログラムみたいなものがあるといいなとかなり踏み込んでくださいました。
（委員 I）
　今回このあり方の検討委員会のお話をいただいた時に、加西市としての生涯学習のあり方を検討する場なのかなと考えさせていただきました。
　実際、生涯学習のあり方と考えますと、どんな市民を加西市は育成したいのか、その中で、公民館やオークタウンを位置付けないといけないのではないかなと思いました。私は学校教育の立場にいますので、その中で学校教育というものをどういうふうに位置づけるかということを考えたりもします。
　どうしても学校教育というと、学校の中だけで行われているようなイメージがあるのですが、学校教育と家庭教育と社会教育という３つの大きい分野があって、それを繋ぎながら公民館がそこの中でどういう役割を果たすことができるか。また、その中でリアルの学びとオンラインの学びをどうやって結びつけていくのか。
　それを人材育成のサイクルとして回していくことによって、公民館で学んだことが学校教育で還元したい事例が出てきて、それが例えば若い現役世代から、外国人とか女性支援とか障害者の生涯学習も含めてやっていけたら、加西市の魅力発信に繋がっていくと思います。
　その場として公民館とオークタウンが位置付けられたら、すごく市民にとてもわかりやすいものになるのではないかなと思っています。
（委員長）
　加西の魅力を発信する中で、公民館がどんな位置付けになるのだろうかと。あるいは、学校・家庭・地域の連携の中で、教育や文化活動が生まれていったら育まれていったらいいなと。政治や経済の活動も学校・家庭・地域の連携の中で進めていきましょうというようなことが言われるような時代ですから、その中で公民館やオークタウン加西がどんな役割を持つのかということを大きな枠組みの中で視野に置いて考えていきたいというようなご発言だ

と思います。
（委員 H）
　いろいろ公民館の課題をお聞かせいただいたのですが、公民館の職員は、館長１人職員２人の３名で運営をしています。いろいろな課題があって、いろいろ要望もあるかと思うのですが、この３名で動かしているという現実がありますので、その認識していただけたらと思います。
　中長期的に人を増やすとかそういうことでしたら、いろいろなお話ができますし、先ほど教育長がおっしゃった STEAM ラボとかも出来ると思うのですけれど、そのあたり一番核になるようなことかと思います。
（委員長）
　職員配置というところの部分が実は大きな課題になると。人がいなければ動きませんものね。いろいろな仕組みが考えられていますけれども、どういう仕組みが、この加西では提案できるのかということも課題の一つとしてやりましょう。

６.連絡事項
（１）今後の会議日程について
～第２回以降の会議について日程調整～

７.その他

８.閉会
（教育部長）
　皆さんお疲れ様でした。今日は皆さまご出席くださいまして本当に感謝申し上げます。
　それぞれ、個々にお持ちの意見もあろうかと思いますし、母体となる団体をお持ちの方もおられます。それぞれ、いろいろな方々が関わっている中で皆さんはおられると思いますので、この話をできるだけ広げていただきたいと考えています。母体の団体に帰られたときには、こんな議論をしているんだ、みんなどう思うかなという形で、広く意見を集めてくださる役割も担っていただけたらと思っております。多様な見解を承ったうえで取りまとめることができたらなと思っておりますので、そういったご協力もよろしくお願いしたいと思います。
　公民館、高齢化という課題が出ております。ただ、委員長も触れられましたが、高齢者と言われる世代の人口はある意味減らないのですね。なので、高齢化は特段大きな問題と言わなくてもいいのかもしれません。次の高齢者世代に、裾野を拡大していくというイメージでもいいのかもしれません。ただ、圧倒的な世代のギャップがある部分は、何らかの打開策が必要ということではあっても、新たに高齢者と言われるカテゴリーに入って来られる方々に裾野が広がっていくということであれば、何も高齢化を問題視する必要はないのかなとも考えます。
　いろいろな考えはあろうかと思いますので、お示ししておるテーマについての意見を賜れ

ばと思っております。全体的にこういったことを話すのだなということを、そこからも受け取っていただくことができようかと思いますので、それらを踏まえながら、いろいろな人からの意見もお聞きになったうえで、この場に参画いただければ幸いです。

私、コロナで地域のコミュニティが失われていくのではないかということをよく思います。その一助を公民館が担うことができればと思うのですが、いずれにせよ、このコロナで失ったものをそのままにはせず、地域の力というものをコロナ前に戻す。非常に労力がいる話だと思うのですが、さらに発展させるというようなことは理想であっても、まずは戻していくということから始めるのが妥当なのかなと思っております。そういった場面でも、地域や公民館活動がその役割を担っていけばと我々は考えております。

これからお時間を頂戴しますが、今後ともご協力のほどよろしくお願いします。本日は、どうもありがとうございました。